

文書分類番号	00	09	03	002	永 年	起案	平成 年 月 日	決裁	平成 年 月 日
議 長	副議長	局 長	次 長	副主幹	担 当	担 当	文書取扱主任		

第 8 回 総 務 文 教 常 任 委 員 会 会 議 録

開催年月日	平成23年10月26日（水曜日）	開会 9時58分	閉会 10時45分
開催場所	第一委員会室		
出席委員	大谷、井上、渡辺、渡邊、柴田	事務局	菊井次長
	委員外～小野、木下、窪之内		寺嶋副主幹
欠席委員	水口		
説明員	別紙のとおり	議 件	別紙のとおり
議 事 の 概 要	1. 所管からの報告事項について		
	次の事項について所管から説明を受け、質疑を行い、すべて報告済みとした。		
	(1) 職員の懲戒処分等について		
	(2) 副市長の公募について		
	(3) 中華人民共和国黒竜江省視察報告について		
	2. その他について		
	・事務局より常任委員会道外視察の関係書類を10月28日（金）に郵送する旨の報告があった。		
	・道外視察の報告書については、渡辺精郎委員と渡邊龍之委員が作成することとした。		
	3. 次回委員会の日程について		
	正副委員長に一任することに決定した。		
	上 記 記 載 の と お り 相 違 い ない。 総務文教常任委員長 大 谷 久美子 ㊞		

平成23年10月25日

滝川市議会議長 水 口 典 一 様

滝川市長 前 田 康 吉

総務文教常任委員会への説明員の出席について

平成23年10月20日付け滝議第114号で通知がありました総務文教常任委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いします。

記

滝川市長の委任を受けた者

総務部長	山 崎 猛
総務部次長	高 橋 一 昭
総務部参事	居 林 俊 男
総務部総務課長	田 中 嘉 樹
総務部国際課長	山 内 康 裕
総務部国際課主事	里 村 真 紀

(総務部総務課総務グループ)

第8回 総務文教常任委員会

H23.10.26 (水) 午前10時00分
第一委員会室

○ 開 会

○ 委員長挨拶（委員動静）

1 所管からの報告事項について

《総 務 部》

（1）職員の懲戒処分等について

（資 料）総 務 課

（2）副市長の公募について

（資 料）〃

（3）中華人民共和国黒竜江省視察報告について

（資 料）国 際 課

2 その他について

3 次回委員会の日程について

○ 閉 会

第8回 総務文教常任委員会

H23. 10. 26(水) 10:00～

第一委員会室

開 会 9 : 5 8

委員動静報告

- 委員長 欠席～水口。委員外～小野、木下、窪之内。プレス空知の傍聴を許可する。
- 委員長 **1. 所管からの報告事項について**
- 委員長 (1) について説明願う。
- 山崎部長 **(1) 職員の懲戒処分等について**
- このたびの不祥事については、職員においては絶対にあってはならないことと認識している。市民、議員の皆様にも深くおわび申し上げたい。先日書面にて概要について送付させていただいたが、内容について総務部次長からもう少し詳しく報告させていただきたい。
- 高橋部次長 (別紙資料に基づき説明する。)
- 委員長 説明が終わった。質疑はあるか。(なし) (1) については報告済みとする。(2) について説明願う。
- (2) 副市長の公募について**
- 居林参事 (別紙資料に基づき説明する。)
- 委員長 説明が終わった。質疑はあるか。
- 渡 辺 給料月額について、応募する際の周知の中に15.8%の減額措置をどのように組み込むのか伺う。
- 田中課長 募集要項の中に給料等を記載している。基本的には条例に定めている給料月額だが、当面の間は15.8%減額ということで記載している。
- 委員長 他に質疑はあるか。
- 副委員長 人材を集めるにはマスコミに取り上げられることが必要だが、どのような報道が行われたのか状況を伺う。
- 居林参事 記者発表においては、多くの記者に来ていただいた。共同通信という全国の地方紙に対して発信している通信社も来たし、時事通信という自治体向けの全国ネットの会社は、既にインターネット上で報道している。周知の手段としてはマスコミが一番だと感じており、東京のテレビ局でも取り上げてくれるように動いたが、映像となるとなかなか難しいということだった。ただ北海道のテレビ局3社に取り上げていただいたので、道民の皆さんにはかなり周知できたと思っている。これから東京での説明会もあるが、新聞社ばかりでなく週刊誌などにも要綱を含めてこういった試みをするので取り上げてくれないかということで働きかけている。相手があることなので、何かの折にこういうことを滝川でやっているという口コミが周知のいい手段だと思っているので、議員の皆さんにおいてもいろいろな形でお話しいただくようお願いしたい。
- 委員長 他に質疑はあるか。
- 渡 辺 審査は有識者で行うということだが、市役所内部のメンバーとなるのか、あるいは外部の人間の導入を考えているのか伺う。
- 居林参事 1次審査は書類選考ということで申込書と論文にしている。これについてはどんなことをアピールしたいのか、表現の仕方などについて内部で審査しようと思っている。他市の例ではこれを20人とか30人に絞り込んでから個別面接を

しており、2次審査については市長のほかは市の人間は入れないで、特に民間会社の社長とかある程度の方に見ていただくのがいいのではと考えており、市内の方でそういったところに秀でた方、そういった人材についても考えている。審査員の承諾を得なければ発表できないので、選考会が終わった段階で公表したい。

委員長

他に質疑はあるか。(なし)(2)については報告済みとする。(3)について説明願う。

(3) 中華人民共和国黒竜江省視察報告について

山内課長

(別紙資料に基づき説明する。)

委員長

説明が終わった。質疑はあるか。

柴田

新聞、その他の情報では黒竜江省に対する中国政府の開発がこれから始まるということである。中国政府として黒竜江省にさらにこ入れしていくというような話が現地であったのか伺う。

山内課長

今のところ北京、上海の海岸区域は大体発展したということで、今後発展させていきたいのは東北3省と言われており、それが黒竜江省、遼寧省、吉林省である。数年以内に北ヨーロッパ、スカンジナビア3国の経済規模を抜くことを目指して開発を進めている。この写真についてはあくまでも開発途上であり、これからどんどんやっていくということである。ちなみにハルビン市内では地下鉄の建設も始まるなど、さまざまな工事も進んでいる現状がある。

柴田

鉱物資源、あるいはエネルギー資源の有無について伺う。

山内課長

東北3省ということでは油田、石炭等がまだ数多くあるということで、これらを使って開発している。ただクリーンエネルギーということで、ジャムス市では風力発電の施設が相当見られ、そういったほうにも力を入れているという話もあった。地下資源については多種あるということで、それらを使って開発を進めているということである。

委員長

他に質疑はあるか。

副委員長

ジャムス市の概要で生産物が書いてあるが、北海道と緯度が同じくらいということでコメや農作物の状況について伺う。

山内課長

ハルビン市が稚内とほぼ同じ緯度で、ジャムス市はそれより北になるので樺太くらいの位置になると思う。農業については、コメ、トウモロコシ、大豆、小麦等を非常に大きな規模で行っている。ジャムス市自体がアムール川支流の松花江に沿っている町なので、かんがいをうまく使ってこれからさらに増産しようということはかなり農業に力を入れている。平地なのでこの辺のかんがいと違って高低差を使って水を流すことができないので、川岸にビルの6階くらいの建物をつくり、そこにかんがい溝をつなげて4キロ以上にわたるかんがい施設をつくって来年の春くらいから供用を始めてコメをつくるということだった。

委員長

他に質疑はあるか。

渡邊

滝川市が友好の提携という方向で行くとなったときに、これくらいすごいところとの分野での提携を考えているのか伺う。

山内課長

ハルビンがここまで発展しているとは思っていなかったし、400キロも離れたジャムス市でも発展は著しかった。どこから手をつけていくのかという部分については、今回報告させていただいた中で皆様の意見をいただきながら、しっかり地に足をつけた状態で考えていかなければならないと思う。市、道、国などが一体となってやっていかないと大変なことになると感じた。

- 委員 長
副委員長
山内課長
副委員長
山内課長
委員 長
委員 長
寺嶋副主幹
委員 長
委員 長
- 他に質疑はあるか。
- ① 道とハルビンには 25 年の歴史がある。道との関係はどんな分野で進んでいるのか伺う。
- ② 岩見沢から農業の先駆者がハルビンに行っているが、日本に対する親日的な雰囲気などがあるのか伺う。
- ② 原正市さんという方が黒竜江省に農業技術を伝えて大きな増産になったことに対して現地の人々は大変感謝しており、そういった話は何度か出ていた。一方で満州というエリアでは戦争にかかわる話は聞いていない。いろいろな側面から見ていかなければいけないと思っている。
- ① 黒竜江省に北海道の品物を売りたいというのが北海道側のスタンスで、黒竜江省としては技術等についてはかなりなレベルになっているので、日本から学びたいとは言っているが来るものは拒まずという感じがした。25 年に交流がスタートした時点では、黒竜江省のほうが北海道、日本に学びたいということでした。いろいろな人々が来ていたが、ここ十数年は逆転しているような状況が随所に感じられた。ただ北海道と黒竜江省には強いパイプがある。北海道の国際課に中国語の国際交流員が配置されているが、黒竜江省の国際課に当たるところの職員が毎年 1 年交代、近年は市内の大学の先生たちが、国際交流員、研修生として配置されている。そういった強いパイプを活用しながらいろいろできればと思う。
- 鉄道などそこまでのアクセスを伺う。
- 高速鉄道ではないが鉄道はしっかり入っている。北京までは聞いていないが、大連-ハルビン間が 5 時間くらいと言っていたので、地図で見るとかなり距離があることから結構なスピードで走っていると思われる。
- 他に質疑はあるか。(なし) (3) については報告済みとする。
- 2. その他について**
- 事務局より常任委員会の道外視察についての報告がある。
- 常任委員会の道外視察先が正式に決まった。当初は北九州市を予定していたが都合がつかなかったため、同じ住宅用太陽光発電設置費補助事業に取り組んでいる福岡県古賀市を視察することになった。副市長の公募については予定どおり岡山県瀬戸内市、小中一貫教育については大阪府箕面市を視察することに決定した。日程表など関係書類は 28 日金曜日に郵送する。11 月 7 日は、8 時 30 分に東玄関からマイクロバスが出るので 5 分前までに集合いただきたい。預り金の 3 万円については当日徴収させていただくのでよろしく願います。
- この件について何かあるか。(なし) 道外視察の報告書の作成については渡辺精郎委員、渡邊龍之委員に願います。3 カ所視察するので手分けして作成していただきたい。そのほかに委員から何かあるか。(なし)
- 3. 次回委員会の日程について**
- 正副委員長に一任いただくことでよいか。(よし) 以上をもって第 8 回総務文教常任委員会を閉会する。

閉 会 10 : 45